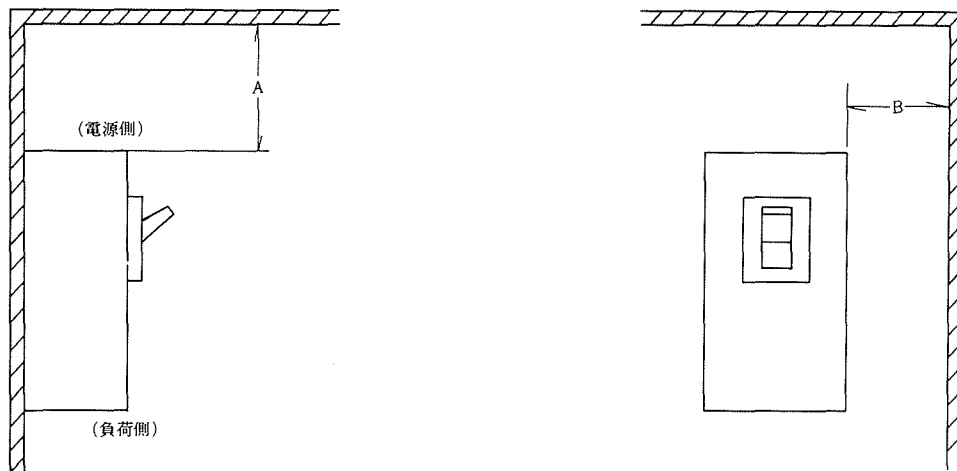


□配線用しゃ断器，漏電しゃ断器の取付け

■アークスペース

配線用しゃ断器や過負荷・短絡保護兼用形漏電しゃ断器が，短絡電流をしゃ断したとき，電源側の排気穴からアークが噴出します。この排気穴のすぐ近くにしゃへい物や，導電材があると，この部分でアークによる短絡や，地絡事故を起こし，配線用しゃ断器や漏電しゃ断器のしゃ断容量を保証することができなくなることが考えられます。

このため，配線用しゃ断器や過負荷・短絡保護兼用形漏電しゃ断器の取付けに当っては，下表に示すアークスペースをとることが必要です。



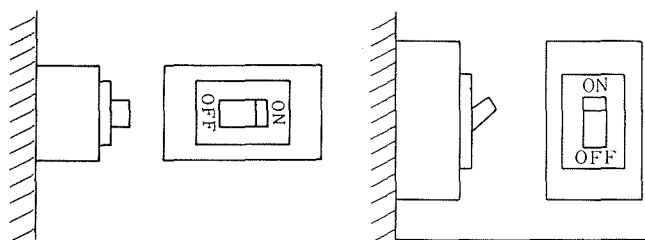
フレームサイズ	最小寸法 (mm)	
	A	B
30 AF 50 AF 60 AF 75 AF	30	25
100 AF 125 AF 225 AF 250 AF	50	40
400 AF 600 AF 800 AF 1000 AF 1200 AF	80	50
1400 AF 1600 AF 2000 AF 2500 AF 3200 AF 4000 AF	150	100

■取付方向

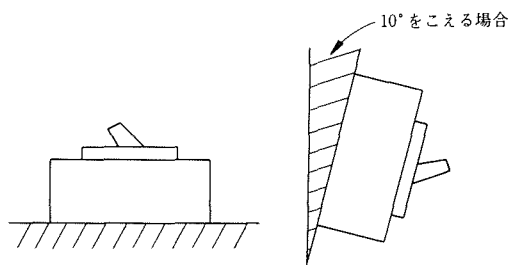
配線用しゃ断器で過電流引外し素子が完全電磁式のものと及び，漏電しゃ断器の過負荷・短絡保護兼用形で，過電流引外し素子が完全電磁式のものとは鉛直面に取り付ける必要があります。

取付面が鉛直面に対して $\pm 10^\circ$ 以上傾斜すると過電流保護特性が変化し，前に傾くと動作時間が早くなり，後に傾いた場合にはその逆で，動作時間が長くなったりします。

これに対し，熱動式および熱動電磁式のものでは方向性には全く影響されません。漏電特性に関しては，上記の両方式とも方向性には影響されません。



良い例



悪い例